

こども・子育てに関する県民アンケート調査 〈学生・生徒〉

令和6年（2024年）6月11日
健康福祉部



県民アンケートの概要について

1 趣旨

- 令和4年の出生数は前年比5.1%減の79万9728人で、統計開始以来、初の80万人割れとなった（厚生労働省人口動態統計）。
- 本県においても、令和4年の出生数は、11,875人であり、20年前と比較すると約30パーセント減少し、少子化傾向に歯止めがかからない状況が続いており、今後さまざまな施策を講じていく必要性が高まっている。
- そこでまず、広く県民の子育て環境や意識の実態や、若年層が熊本に定着するために必要なもの等を把握し、各世代、未婚・既婚者、地域毎の実情にあった効果的な政策を立案するための基礎データとなる県民アンケート調査を実施した。

2 対象者

- 学生・生徒（中学生以上）
- 社会人

3 実施方法

- Webアンケート調査

4 調査期間

- 令和5年6月5日（月）～7月7日（金）

5 回答者数

- 12,408人

→内訳

【社会人】8,556人、【学生・生徒】3,852人

【回答期限 延長】
令和5年
7月7日(金)
まで

アンケートへのご協力をお願い

「こどもまんなか熊本」の実現に向けた
こども・子育てに関する県民アンケート調査
に御協力をお願いいたします！

この度、熊本県子ども未来課では、熊本県の少子化対策の一環として、
「こどもまんなか熊本」(*)の実現に向けたこども・子育てに関する県
民アンケート調査を実施します。
皆様のご回答を、今後のより良い結婚・子育て環境づくりに役立てま
す。
ぜひとも皆様の声をお聞かせください。

※「こどもまんなか熊本」とは、
あらゆる立場の個人や組織、コミュニティ等が、こどもや若者・子育て世代の視点
に立ち、その最善の利益を第一に考えながら様々な取組みを実施する社会

【回答方法等】

①対 象 者
熊本県内在住の若者、子育て世代
(※学生・生徒、未婚の方、既婚の方、子育て中の方、こどもをお持ちでない方も対
象となります)

②回答方法
下記URLもしくはQRコードからご回答ください。
(1)回答URL
<https://zfrmz.jp/hHKj96RenFDSWG64jRyt>
(2)回答QRコード

(社会人用)



(学生・生徒用)



③回答期限 令和5年7月7日(金)まで

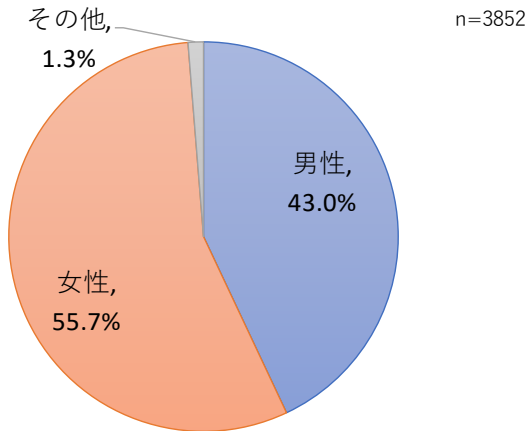
スマートフォンから簡単に
回答できます!!

※5分～10分程度で終わります
※氏名や住所など個人が特定さ
れる内容はありせん

<問い合わせ先> 熊本県健康福祉部子ども・障がい福祉局
子ども未来課 子育て支援企画班 直通:096-333-2225

県民アンケートの概要について

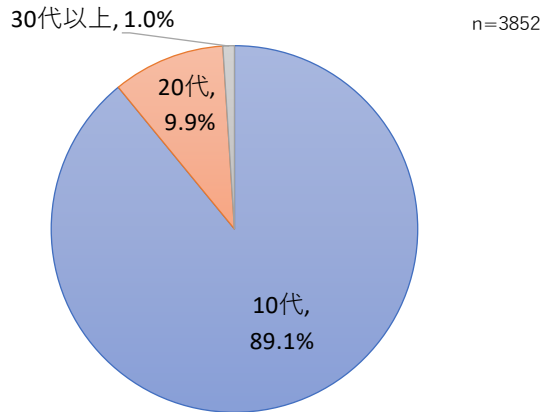
Q性別



q1-1 あなたについてお聞かせください。
Q. あなたの性別は、次のうちどれですか？

		度数	%	有効%
有効	男性	1656	43.0%	43.0%
	女性	2147	55.7%	55.7%
	その他	49	1.3%	1.3%
	合計	3852	100.0%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
合計		3852	100.00%	

Q年齢(年代)

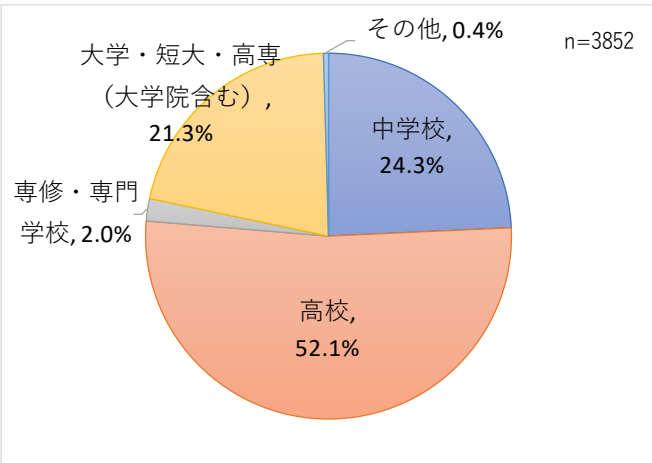


q1-2 Q. あなたの年齢（年代）は、次のうちどれですか？

		度数	%	有効%
有効	10代	3431	89.1%	89.1%
	20代	382	9.9%	9.9%
	30代以上	39	1.0%	1.0%
	合計	3852	100.0%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
合計		3852	100.00%	

県民アンケートの概要について

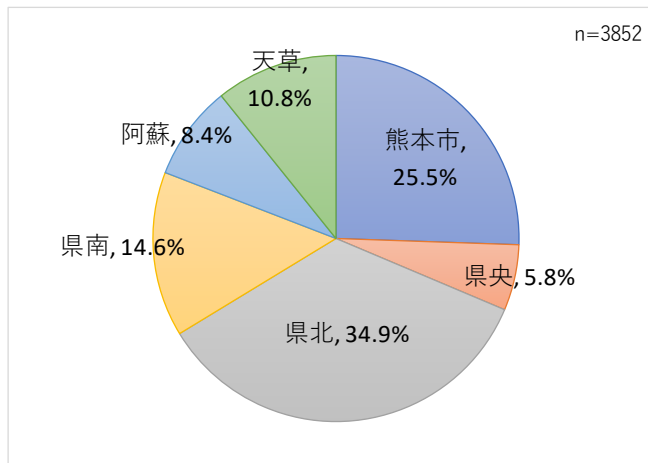
Q在学



q1-3 Q. 現在、あなたが在学中なのは、次のどれですか？

		度数	%	有効%
有効	中学校	935	24.3%	24.3%
	高校	2005	52.1%	52.1%
	専修・専門学校	76	2.0%	2.0%
	大学・短大・高専（大学院含む）	819	21.3%	21.3%
	その他	17	0.4%	0.4%
	合計	3852	100.0%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
合計		3852	100.00%	

Q居住地



q1-4 Q. あなたの居住地域は、次のうちどれですか？

		度数	%	有効%
有効	熊本市	984	25.5%	25.5%
	県央	224	5.8%	5.8%
	県北	1346	34.9%	34.9%
	県南	561	14.6%	14.6%
	阿蘇	322	8.4%	8.4%
	天草	415	10.8%	10.8%
	合計	3852	100.0%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
合計		3852	100.00%	

※県央（宇土市 / 宇城市 / 下益城郡 / 上益城郡）

※県北（荒尾市 / 玉名市 / 玉名郡 / 山鹿市 / 菊池市 / 合志市 / 菊池郡）

※県南（八代市 / 八代郡 / 水俣市 / 葦北郡 / 人吉市 / 球磨郡）

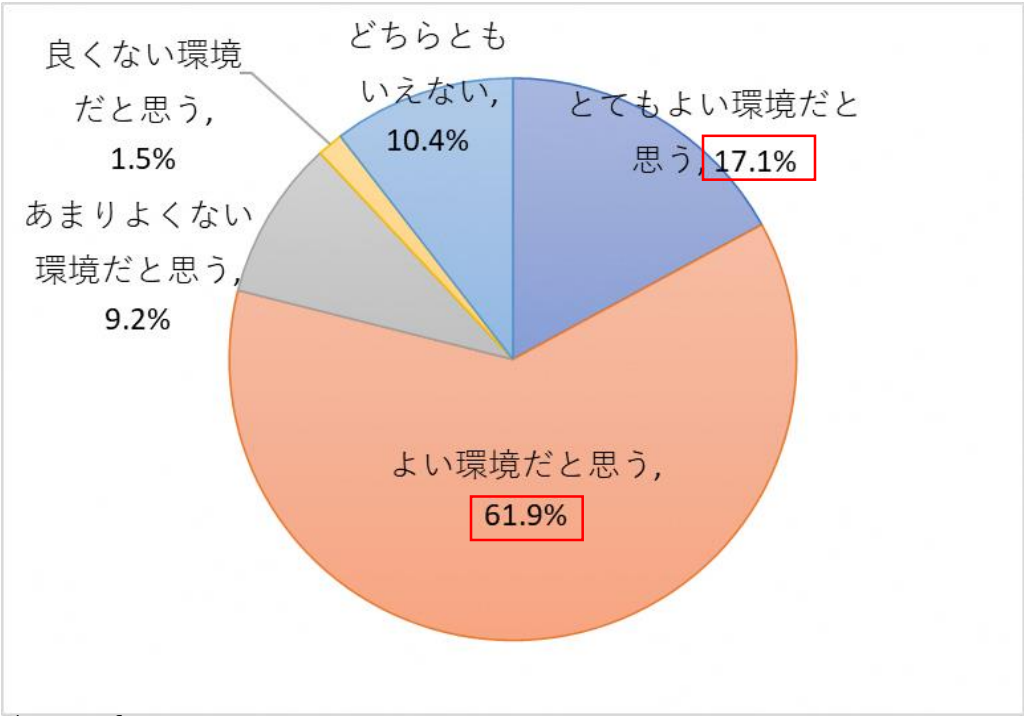
※阿蘇（阿蘇市 / 阿蘇郡）

※天草（天草市 / 上天草市 / 天草郡）

県民アンケートの概要について

Q熊本で働き生活していく環境は、県外(大都市圏)と比べた場合、次のどれだと思いますか

- 熊本で働き生活していく環境について、県外(大都市圏)と比べどうかを尋ねたところ、「とてもよい環境だと思う」(17.1%)「よい環境だと思う」(61.9%)が全体の約8割(79.0%)を占めている。

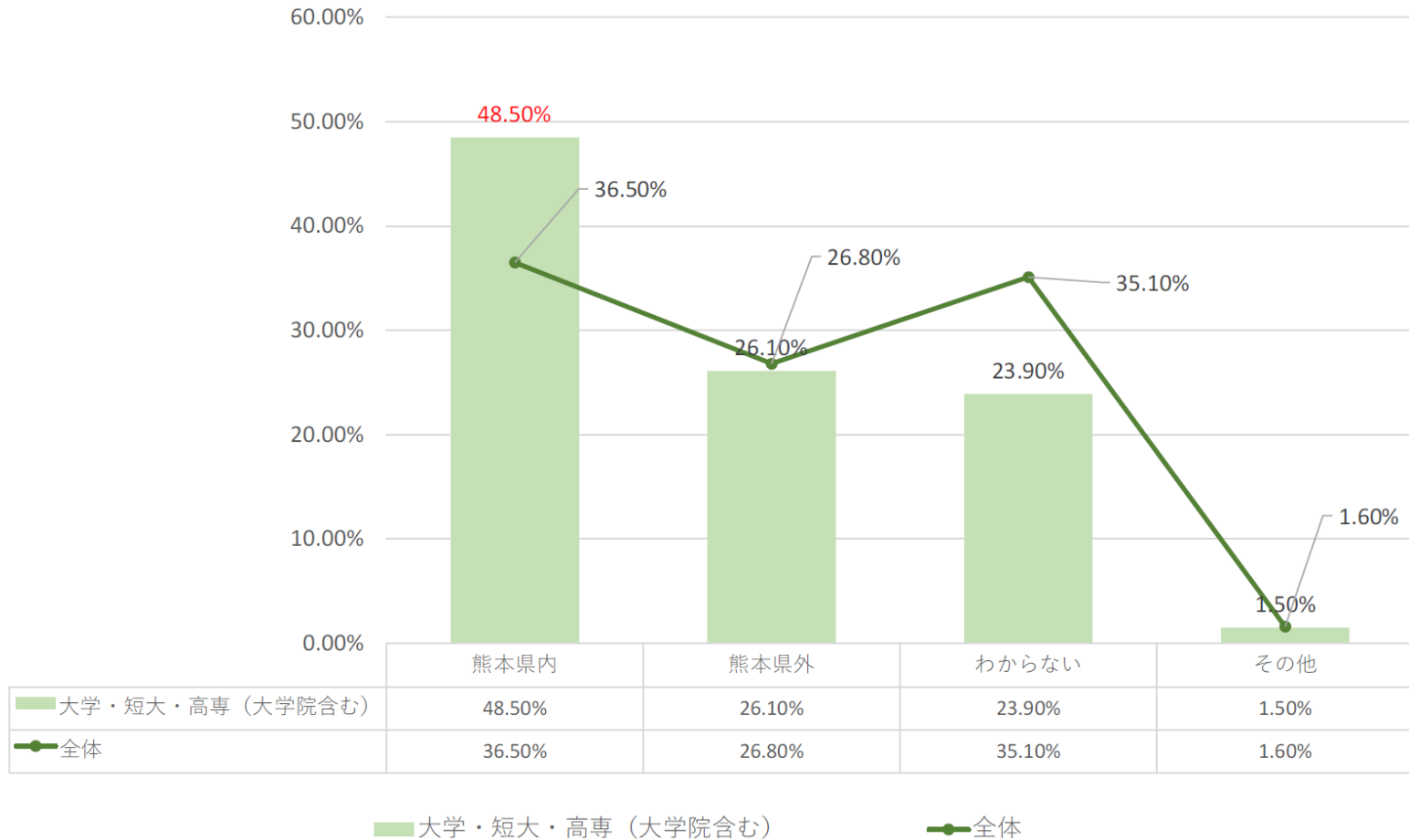


		度数	%	有効%
有効	とてもよい環境だと思う	657	17.1%	17.1%
	よい環境だと思う	2384	61.9%	61.9%
	あまりよくない環境だと思う	353	9.2%	9.2%
	良くない環境だと思う	57	1.5%	1.5%
	どちらともいえない	401	10.4%	10.4%
	合計	3852	100.0%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
合計		3852	100.00%	

県民アンケートの概要について

Q大学・短大・高専(大学院含む)生×将来働きたい場所

- 熊本県内の学校に進学した大学・短大・高専(大学院含む)生が将来働きたい場所は、全体の回答と比較して「熊本県内」が多い傾向。

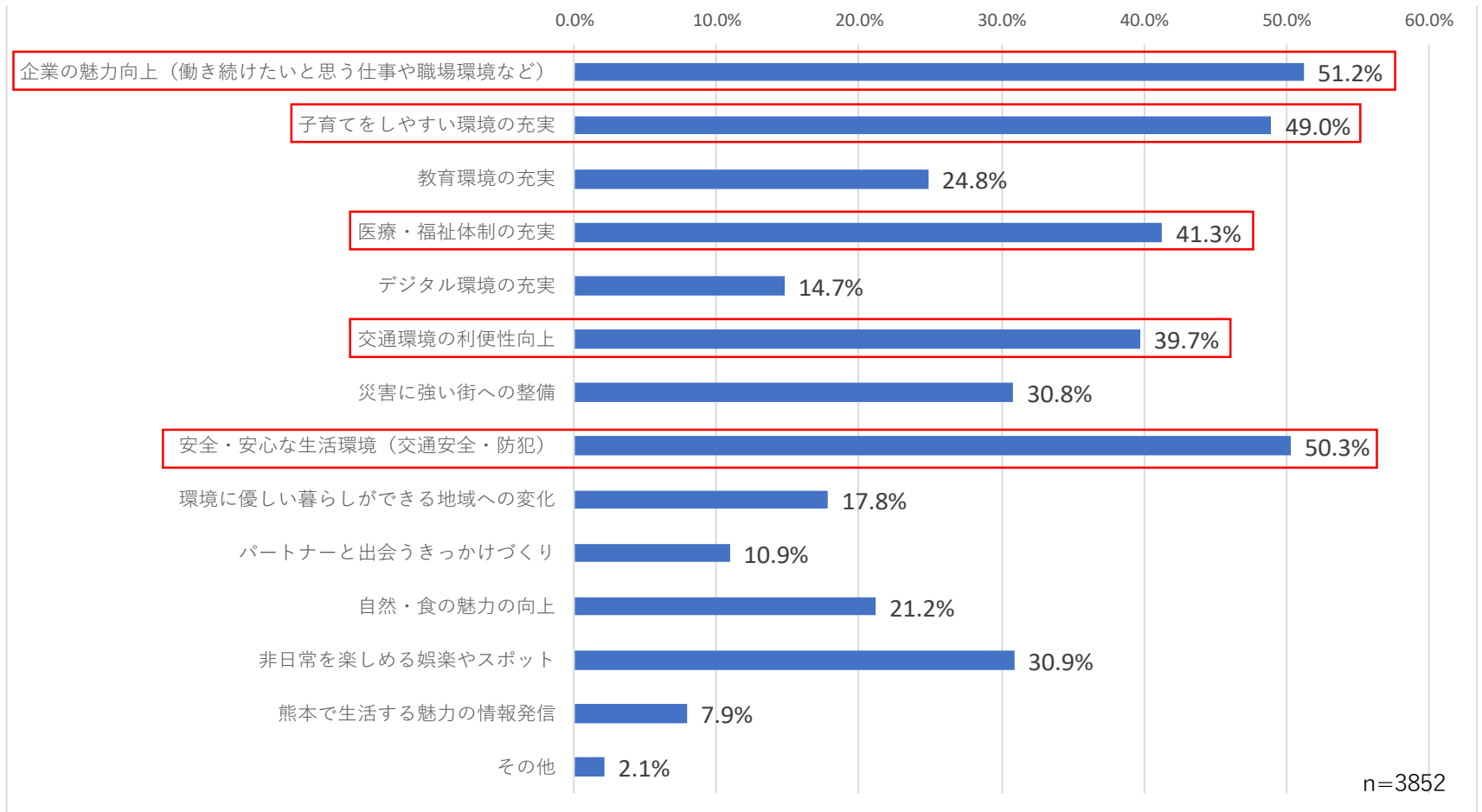


Q3学歴 × Q6将来働きたい場所（※表は一部抜粋）
 $\chi^2=156.1$ 自由度=12 $p<0.001$

県民アンケートの概要について

Qもし熊本で社会人として生活していくとしたら、充実させてほしいもの※最大5つ選択

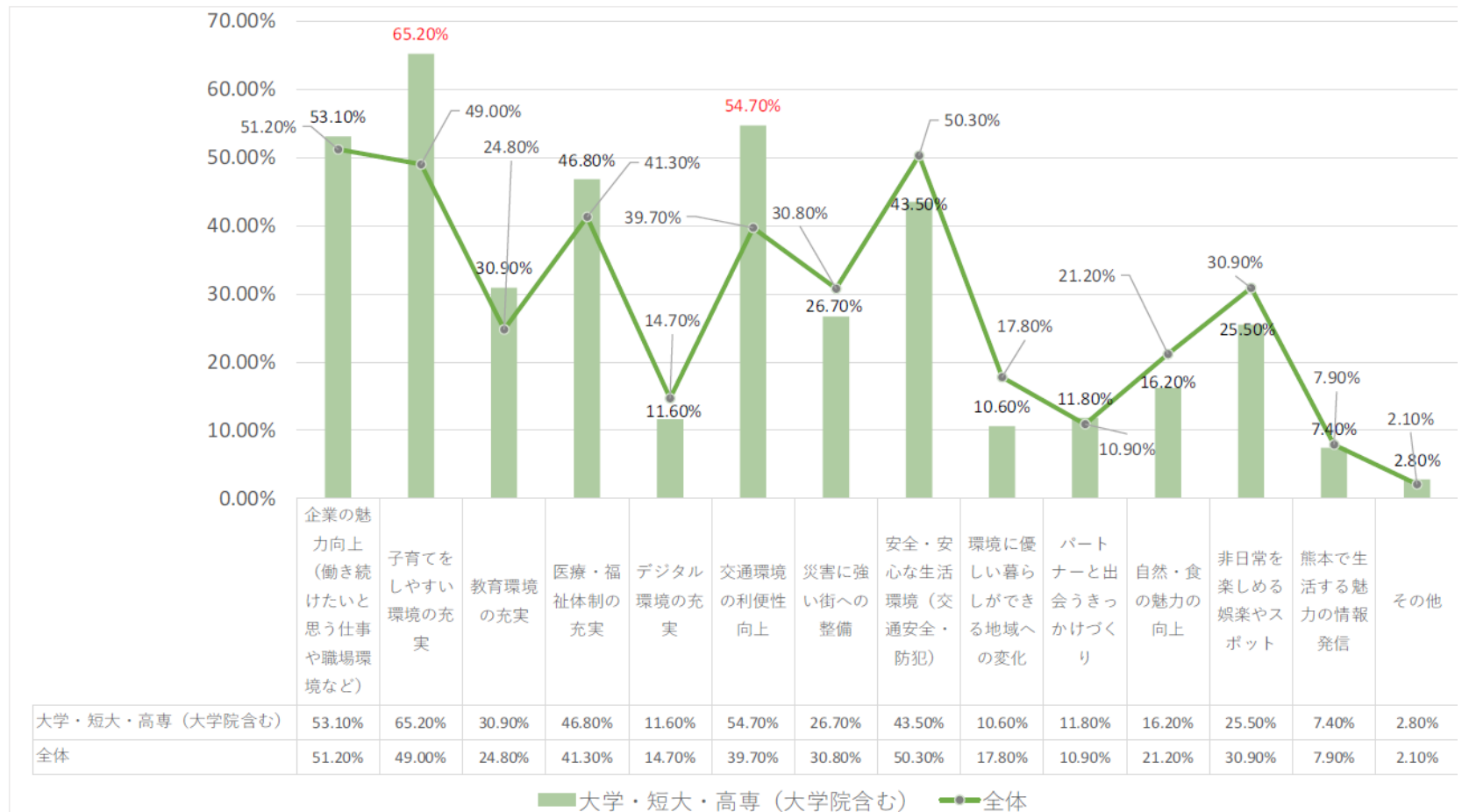
- もし熊本で社会人として生活していくとしたら、という仮定で「充実させてほしいもの」を尋ねたところ、「企業の魅力の向上(働き続けたいと思う仕事や職場環境など)」(51.2%)や「子育てしやすい環境の充実」(49.0%)、「医療・福祉体制の充実」(41.3%)、「交通環境の利便性向上」(39.7%)、「安全・安心な生活環境(交通安全・防犯)」(50.3%)であった。



県民アンケートの概要について

Qもし熊本で社会人として生活していくとしたら、充実させてほしいもの×大学・短大・高専(大学院)生

- 大学・短大・高専(大学院含む)生は、充実させてほしいものとして「子育てをしやすい環境の充実」「交通環境の利便性向上」への回答が全体の回答と比較して多い傾向。



Q3学歴×Q8充実させてほしいもの「子育てをしやすい環境の充実」(※表は一部抜粋)

$\chi^2=130.0$ 自由度=2 $p<0.001$

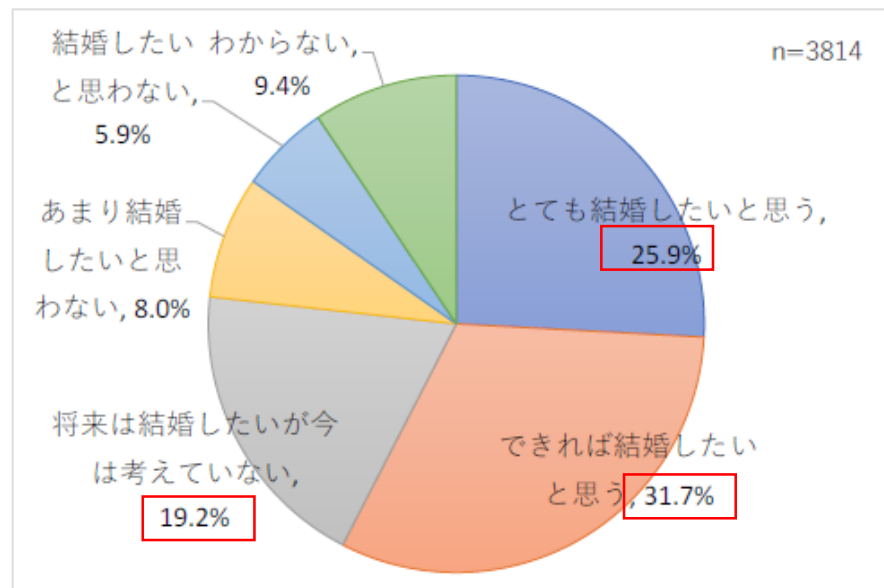
Q3学歴×Q8充実させてほしいもの「交通環境の利便性向上」(※表は一部抜粋)

$\chi^2=35.1$ 自由度=2 $p<0.001$

県民アンケートの概要について

Qあなたは将来、結婚したいと思いますか？

- 将来の結婚意向について、結婚願望がある学生・生徒の割合(「とても結婚したいと思う」、「できれば結婚したいと思う」、「将来は結婚したいが今は考えていない」の合計)は76.8%であった。



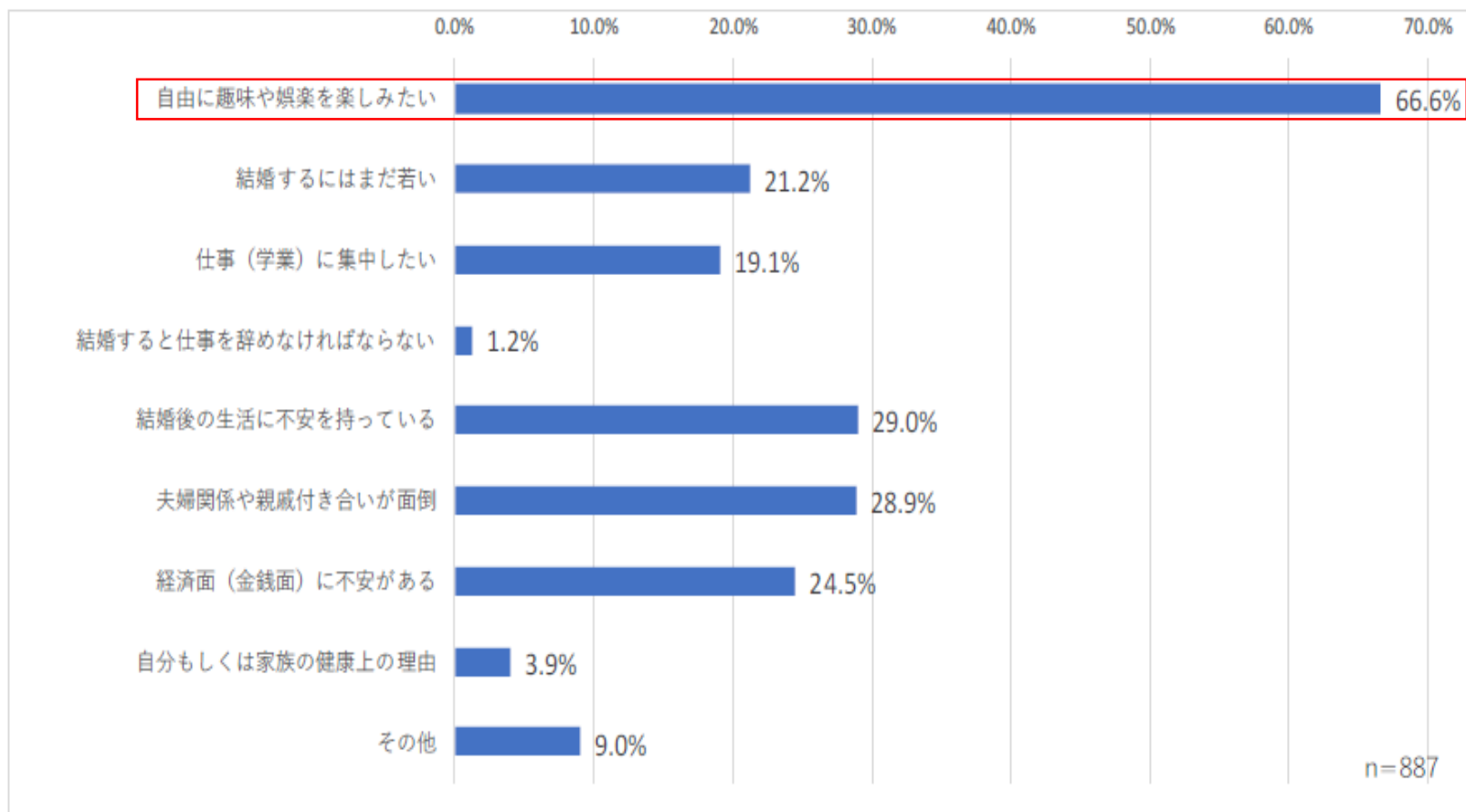
Q. あなたは将来、結婚したいと思いますか？

		度数	%	有効%
有効	とても結婚したいと思う	986	25.6%	25.9%
	できれば結婚したいと思う	1210	31.4%	31.7%
	将来は結婚したいが今は考えていない	731	19.0%	19.2%
	あまり結婚したいと思わない	304	7.9%	8.0%
	結婚したいと思わない	224	5.8%	5.9%
	わからない	359	9.3%	9.4%
	合計	3814	99.0%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
	非該当	38	1.0%	
合計		3852	100.00%	

県民アンケートの概要について

Q結婚したくない理由

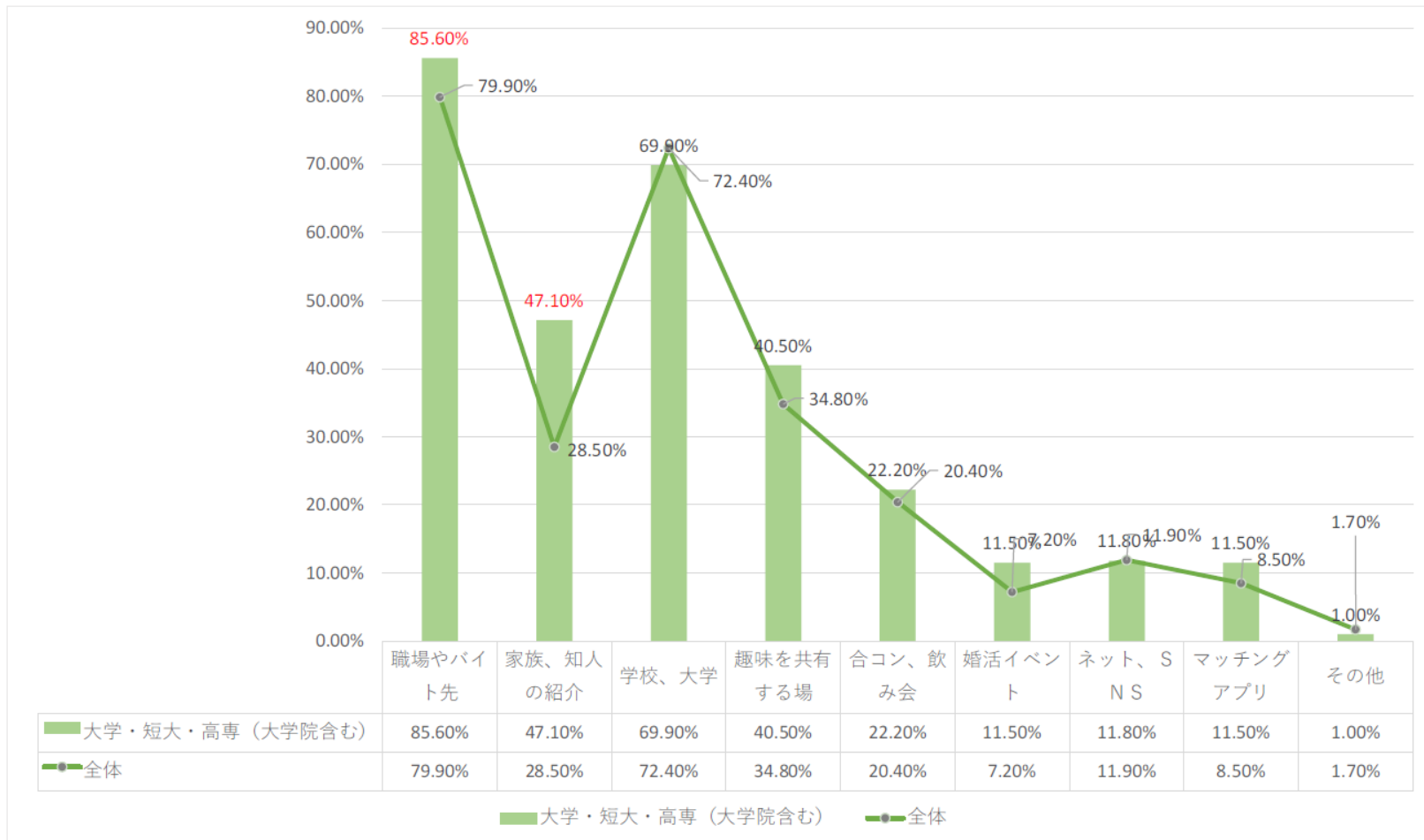
- 「あまり結婚したくない」「結婚したくない」「わからない」と回答した理由を尋ねたところ、「自由に趣味や娯楽を楽しみたい」が66.6%で最も多かった。



県民アンケートの概要について

Q結婚に繋がると思う出会いのシーン×大学・短大・高専(大学院含む)生

- 大学・短大・高専(大学院含む)生は、結婚に繋がると思う出会いのシーンとして「職場やバイト先」を最も多く回答。また、「家族、知人の紹介」への回答が全体の回答と比較して多い傾向。



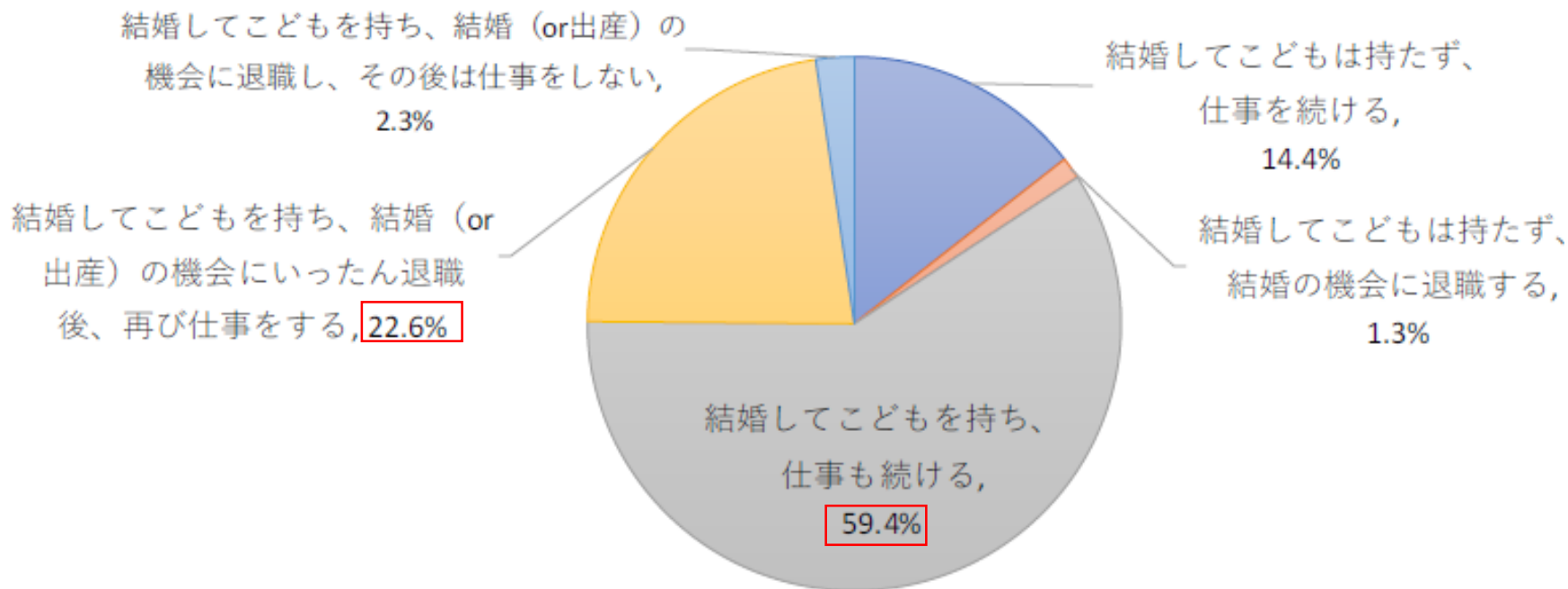
Q3学歴×Q17結婚に繋がる出会いのシーン「家族、知人の紹介」(※表は一部抜粋)

$\chi^2=166.5$ 自由度=4 $p<0.001$

県民アンケートの概要について

Q結婚後の希望するライフスタイル

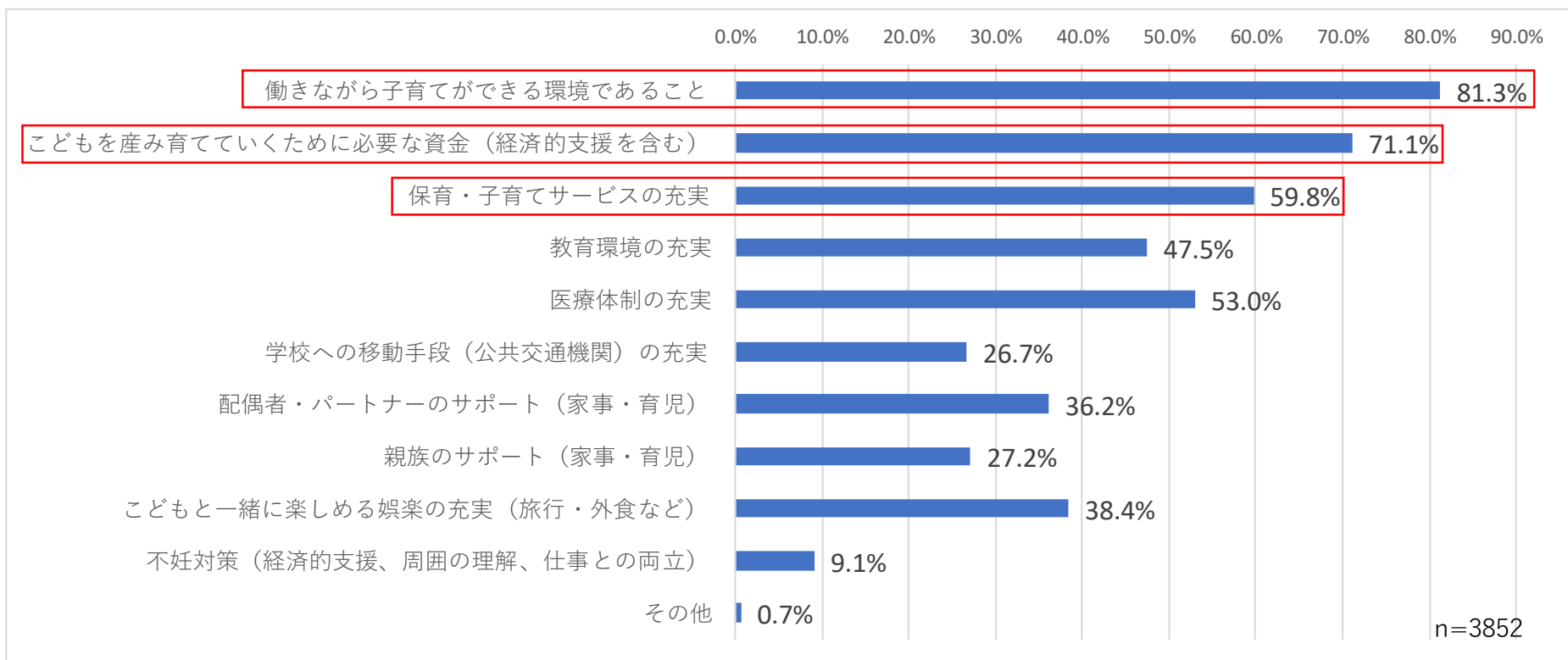
- 結婚後の希望するライフスタイルを尋ねたところ、「結婚してこどもを持ち、仕事を続ける」が59.4%、次に多かった回答は「結婚してこどもを持ち、結婚(or出産)の機会にいったん退職後、再び仕事をする」で22.6%であった。



県民アンケートの概要について

Q将来、子育てををするとしたら、子育て支援で必要なもの※最大7つ選択

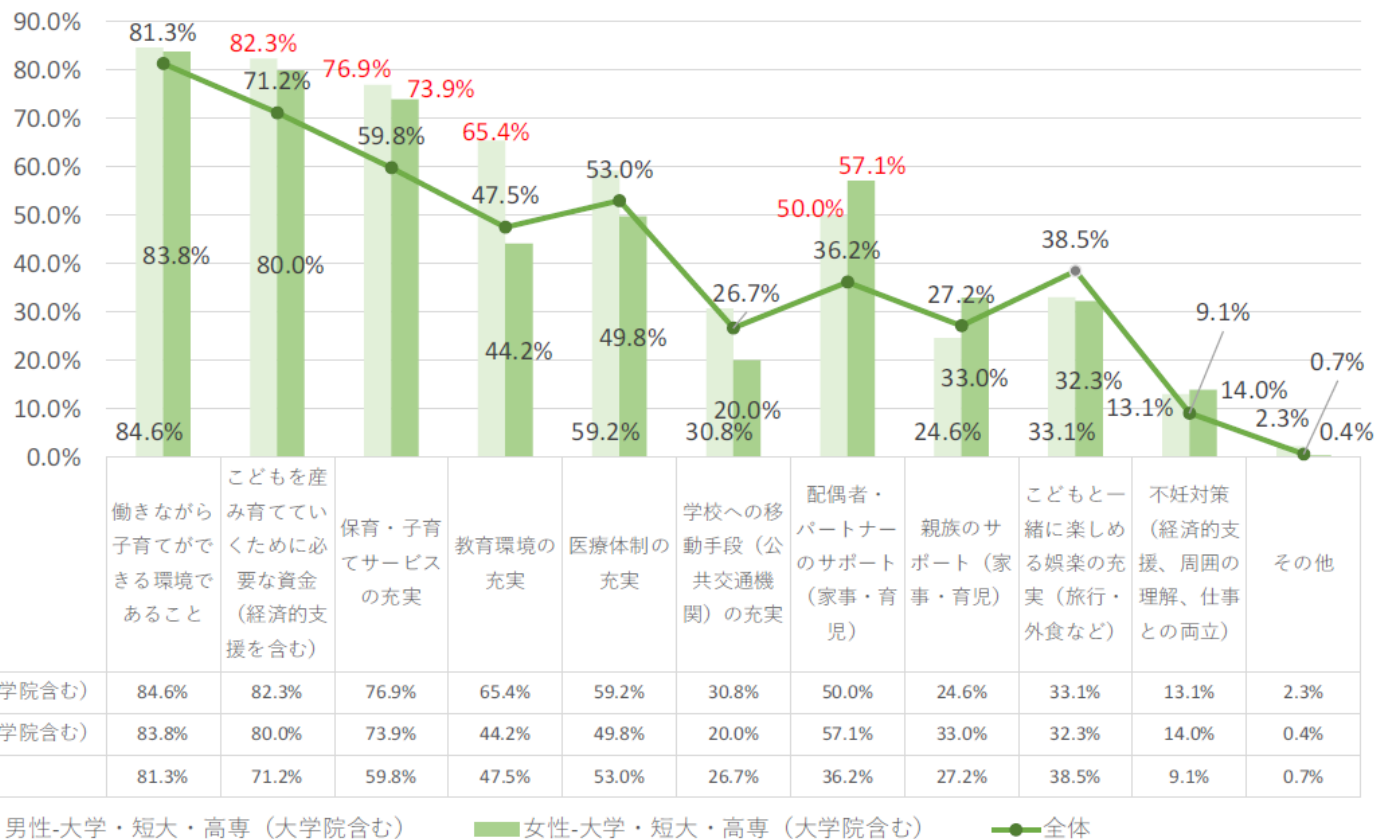
- 子育て支援で必要なものを尋ねたところ「働きながら子育てができる環境であること」(81.3%)が最も多く、次いで「こどもを産み育てていくために必要な資金(経済的支援を含む)」(71.1%)、「保育・子育てサービスの充実」(59.8%)であった。



県民アンケートの概要について

Q将来、子育てをしたら、子育て支援で必要なもの×大学生・短大・高専(大学院含む)生

- 大学・短大・高専(大学院含む)生は、必要な子育て支援として男女ともに「保育・子育てサービスの充実」と「配偶者・パートナーのサポート(家事・育児)」への回答が全体の回答と比較して多い傾向。また、男性の大学・短大・高専(大学院含む)生は「こどもを産み育てていくために必要な資金(経済的支援を含む)」や「教育環境の充実」への回答が全体の回答と比較して多い傾向。



Q1性別(男性)・Q3学歴×Q21必要な子育て支援「こどもを産み育てていくために必要な資金(経済的支援を含む)」(※表は一部抜粋) $\chi^2=26.1$ 自由度=4 $p<0.001$

Q1性別(男性)・Q3学歴×Q21必要な子育て支援「保育・子育てサービスの充実」(※表は一部抜粋) $\chi^2=65.5$ 自由度=4 $p<0.001$

Q1性別(男性)・Q3学歴×Q21必要な子育て支援「教育環境の充実」(※表は一部抜粋) $\chi^2=12.7$ 自由度=4 $p<0.05$

Q1性別(男性)・Q3学歴×Q21必要な子育て支援「配偶者・パートナーのサポート(家事・育児)」(※表は一部抜粋) $\chi^2=85$ 自由度=4 $p<0.001$

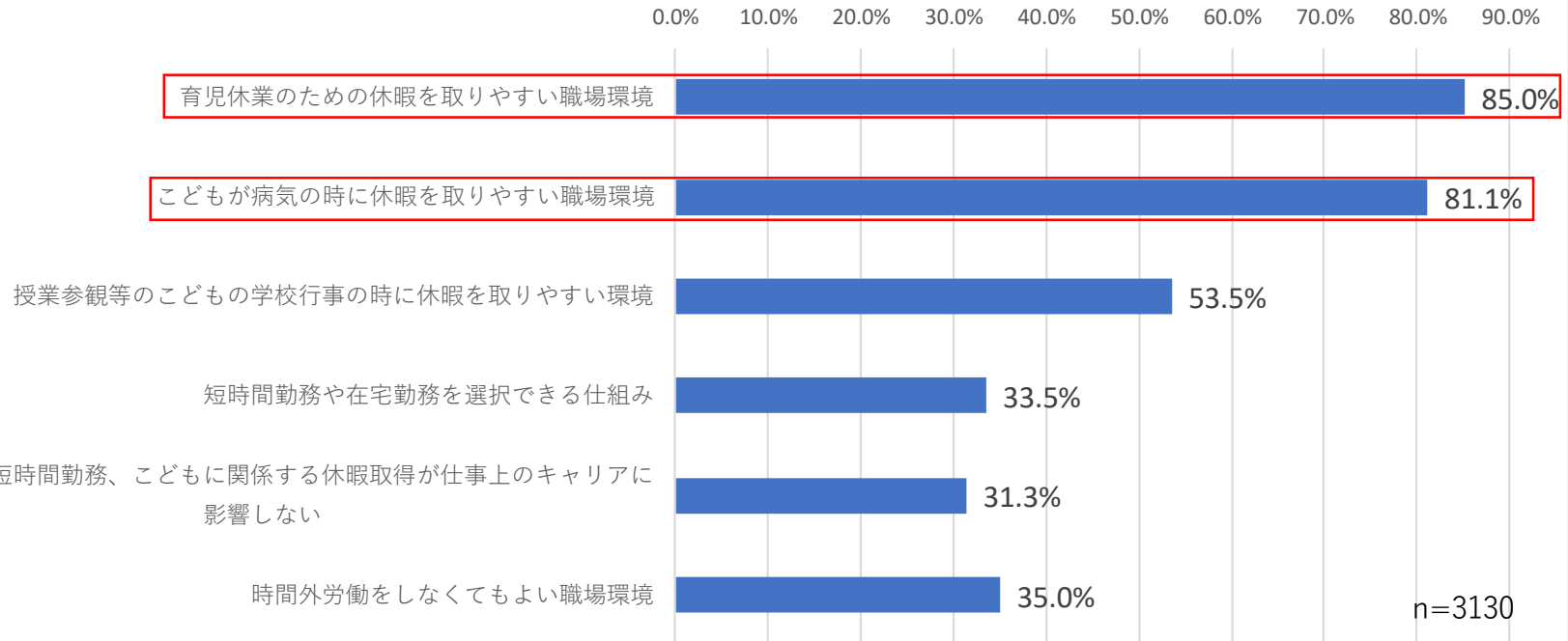
Q1性別(女性)・Q3学歴×Q21必要な子育て支援「保育・子育てサービスの充実」(※表は一部抜粋) $\chi^2=74.4$ 自由度=4 $p<0.001$

Q1性別(女性)・Q3学歴×Q21必要な子育て支援「配偶者・パートナーのサポート(家事・育児)」(※表は一部抜粋) $\chi^2=130.6$ 自由度=4 $p<0.001$

県民アンケートの概要について

Q働きながら子どもを産み育てていく場合、その環境に必要なと思う支援※最大4つ選択

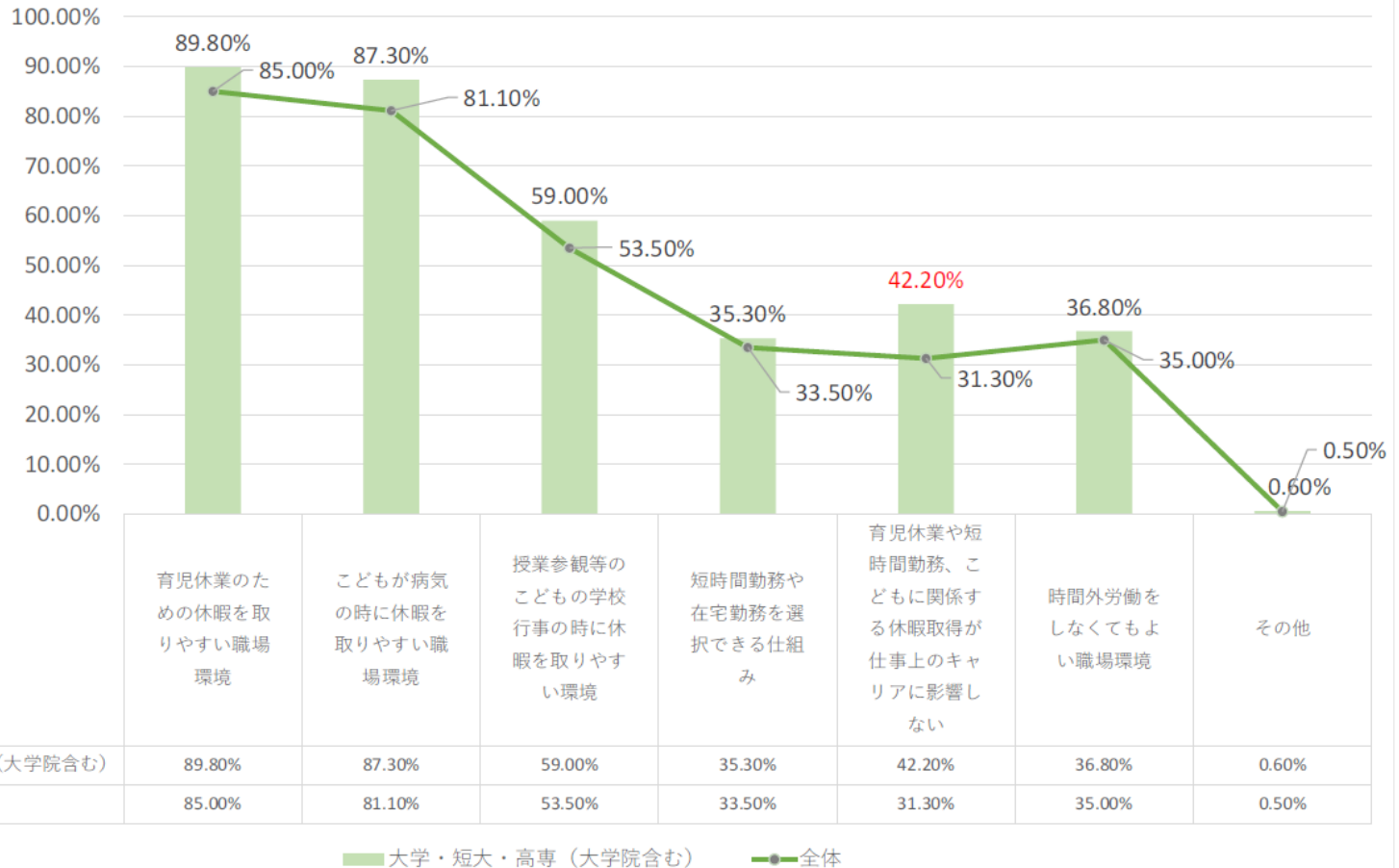
- 将来、働きながら産み育てていく際の環境に必要なと思う支援について尋ねたところ、「育児休業のための休暇を取りやすい職場環境」が85.0%と最も多く、次いで「子どもが病気の時に休暇を取りやすい職場環境」(81.1%)であった。



県民アンケートの概要について

Q働きながら子どもを産み育てていく場合、その環境に必要なと思う支援×大学生・短大・高専(大学院含む)生

- 大学・短大・高専(大学院含む)生は、働きながら子どもを産み育てていくための支援として「育児休業や短時間勤務、子どもに関する休暇取得が仕事上のキャリアに影響しない」への回答が全体の回答と比較して多い傾向。

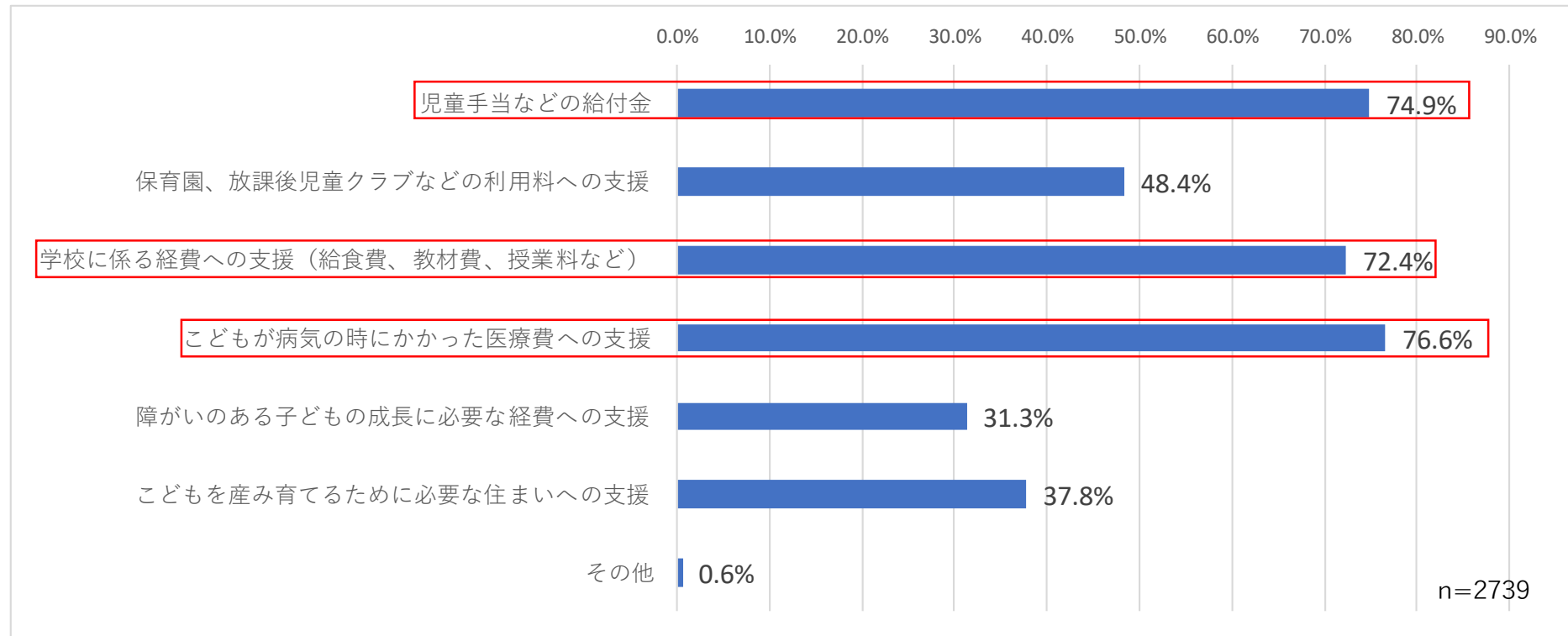


Q3学歴×Q22必要な環境支援「育児休業や短時間勤務、子どもに関する休暇取得が仕事上のキャリアに影響しない」(※表は一部抜粋)
 $\chi^2=54.4$ 自由度=4 $p<0.001$

県民アンケートの概要について

Q将来、こどもを産み育てていくとしたら、そのために必要だと思う資金(経済的支援を含む)※最大5つ選択

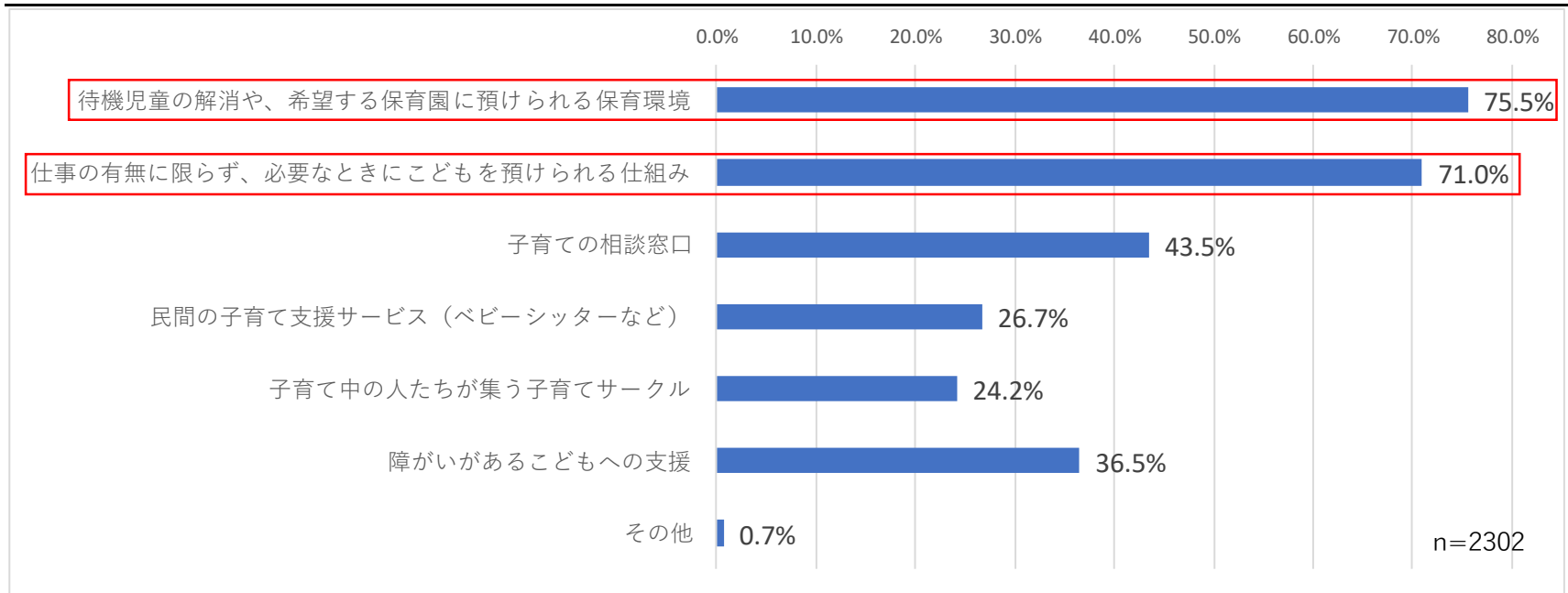
- 将来、こどもを産み育てていくために必要な資金支援について、「こどもが病気の時にかかった医療費への支援」(76.6%) が最も多く、次いで「児童手当などの給付金」(74.9%)、「学校に係る経費への支援(給食費、教材費、授業料など)」(72.4%)で社会人と共通した回答の傾向であった。



県民アンケートの概要について

Q将来、こどもを産み育てていくとしたら、保育・子育てサービスの充実で必要だと思う支援は※最大4つ選択

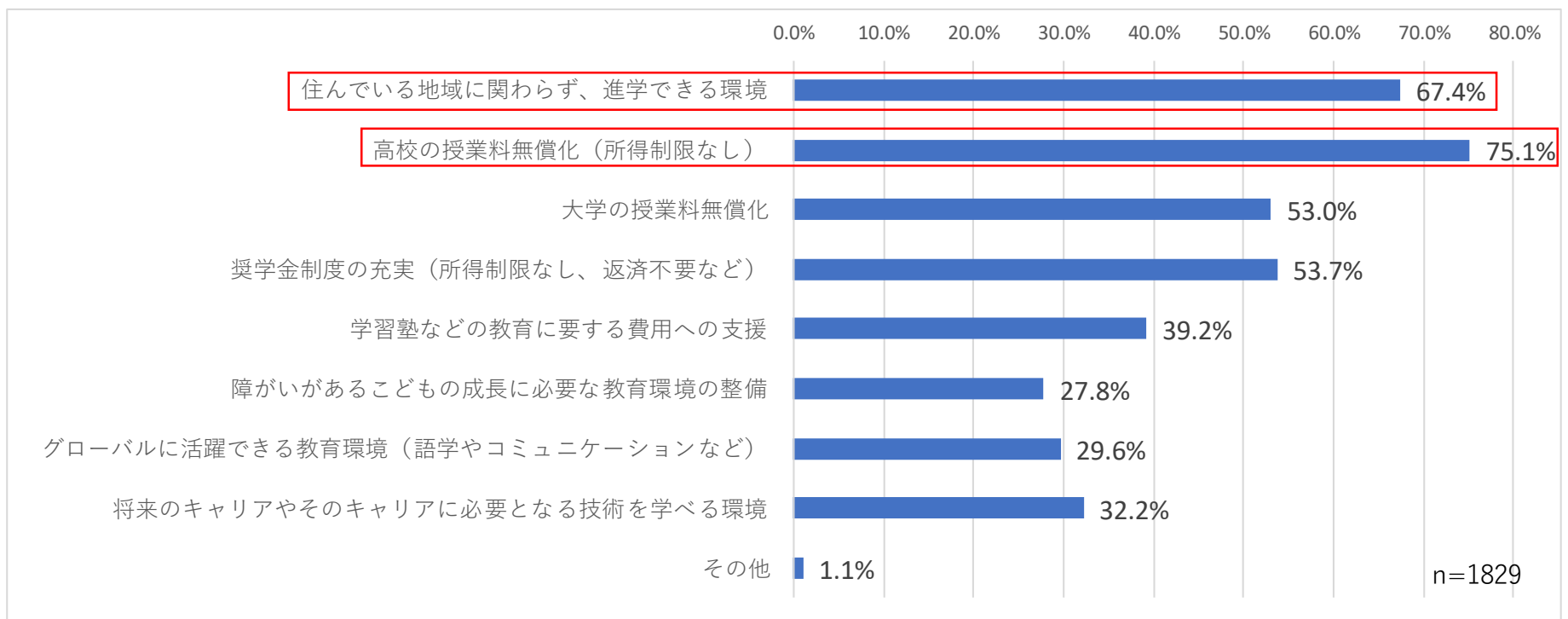
- 将来、こどもを産み育てていくための保育・子育てサービスの充実で必要だと思う支援について、「待機児童の解消や、希望する保育園に預けられる保育環境」(75.5%) が最も多く、次いで「仕事の有無に限らず、必要なときにこどもを預けられる仕組み」(71.0%) で、社会人と同様の回答傾向となった。



県民アンケートの概要について

Q将来、こどもを産み育てていくとしたら、教育環境の充実に必要だと思う支援は※最大5つ選択

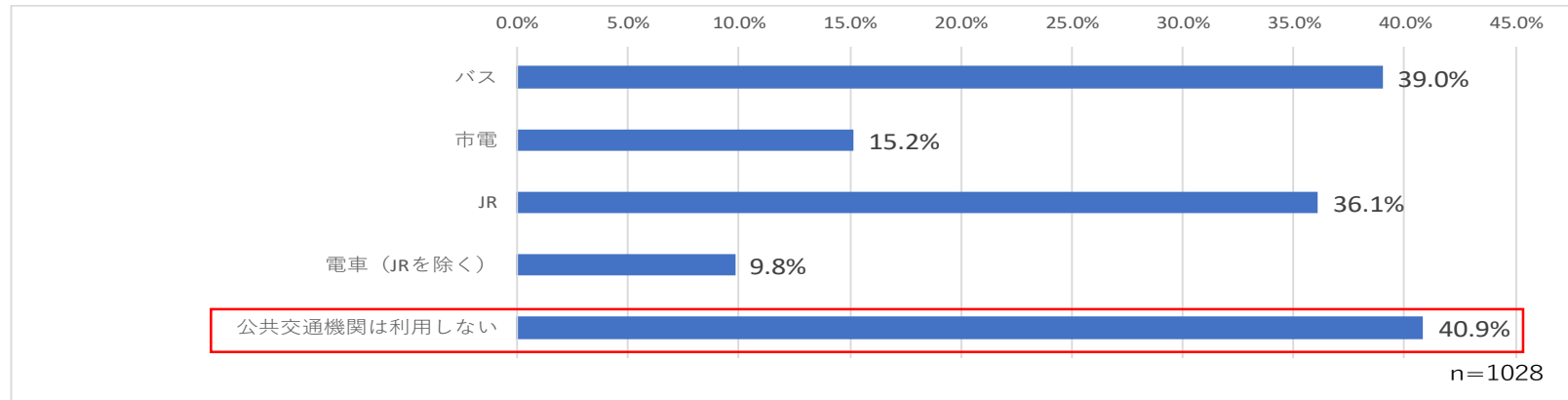
- 将来、こどもを産み育てていくための教育環境で必要だと思う支援について、「高校の授業料無償化(所得制限なし)」(75.1%) が最も多く、次いで「住んでいる地域に関わらず、進学できる環境」(67.4%)であった。



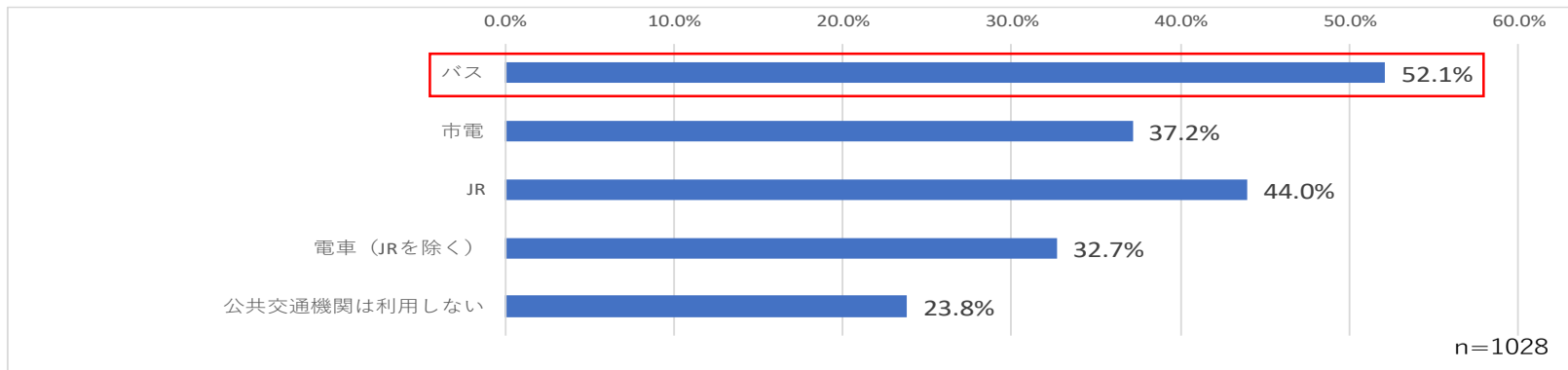
県民アンケートの概要について

- よく利用する交通機関を尋ねたところ、「公共交通機関は利用しない」が40.9%と最も多かった。学生・生徒のため自転車や徒歩の通学でこの傾向になっていると推測される一方、通学でバスやJRを利用する層も見られる中、バスが最も子育て中の方が不便さを感じる(52.1%)。

Qよく利用する交通機関



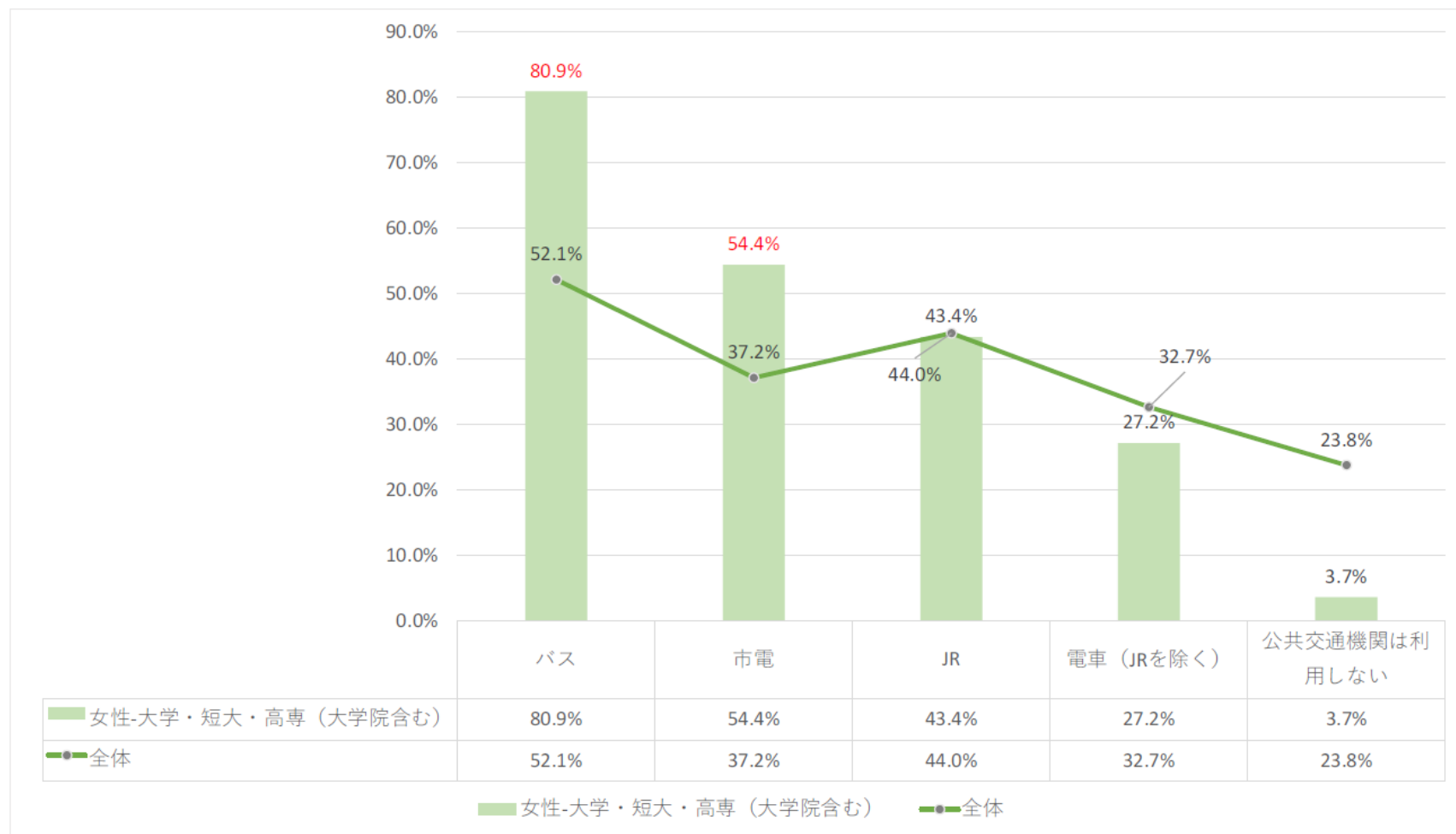
Qあなたが、もしくは子育て中の方が不便さを感じる交通機関は



県民アンケートの概要について

Qあなたが、もしくは子育て中の方が不便さを感じることもある交通機関は。×女性×大学・短大・高専(大学院含む)生

●子育ての中で不便さを感じる交通機関として、女性の大学・短大・高専(大学院含む)生は「バス」「市電」を挙げる傾向。



Q1性別(女性)・Q3学歴×Q27不便さを感じる交通機関「バス」 (※表は一部抜粋)

$\chi^2=69.7$ 自由度=4 $p<0.001$

Q1性別(女性)・Q3学歴×Q27不便さを感じる交通機関「市電」 (※表は一部抜粋)

$\chi^2=25.2$ 自由度=4 $p<0.001$

概要版を含む調査結果については県HPに掲載

(掲載資料)

- ①概要版
- ②単純集計報告書
- ③クロス集計結果報告書

(URL)

<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/35/190564.html>